

IMF サーベイ

アジアの見通し

世界需要は減速するも アジア経済は引き続き安定

IMF サーベイ・オンライン
2012年2月1日



韓国・釜山のコンテナ・ターミナル。
アジア製品の需要の低迷により、同地域の成長は減速している。（写真: Jeon Heon Kyun/epa/Corbis）

- 外需の減速により、アジアの成長が鈍化
- アジア、欧州の金融部門の問題の波及に対し依然として脆弱
- 大半の国は、更なる減速にも力強い政策対応を行う余地を備える

国際通貨基金（IMF）は、アジアの輸出品の需要が減速し、同地域の成長の足かせとなっているものの、アジア各国は、力強い内需に後押しされ引き続き比較的安定していると述べた。

IMF アジア太平洋局のアヌープ・シン局長は、アジアの経済見通しに関する記者会見の中で「域内および世界の貿易パートナーの成長が鈍化するなか、（アジアの）輸出は失速した。しかしこれまでのところ、力強い内需が、この成長の足かせ要因の相殺に貢献している」との見解を示した。

アジアの成長は貿易に大きく依存しており、現在までのところユーロ圏の債務危機の最悪の影響を回避することができている。しかし、シン局長は、世界の金融情勢が一段と悪化した場合、強い負の波及効果が発生する可能性がある」と注意を促した。

シン局長は「標準的な貿易チャネル効果が、信認への影響と金融部門への波及と相まって、内需に具体的な形で大きな波及効果を及ぼし得ることから、アジアが大きく影響を受けることは明らかだろう」と指摘した。

アジア見通しの下方修正、世界経済の減速を反映

IMFは今年アジアは引き続き約6%の成長率を維持し、その後次第に回復し2013年には約6.5%に達するとの見通しを示した。

同見通しは、先週のIMFの最新の*世界経済見通し*に続き発表されたもので、*世界経済見通し*では、今年の世界経済成長は、9月の前回見通しを0.75パーセント・ポイント下方修正し、3.3%と予測している。このような世界経済の情勢が、アジアの成長見通しにマイナスの影響を及ぼしている。

アジア途上国については、今年は7.3%の成長率を予測している。以前の見通しは8%だった。2012年の中国は力強さを維持し8.2%の成長率が見込まれるものの、それでも昨年の見通しより0.8パーセント・ポイント低い数字となっている。

政策対応の余地

シン局長は報道陣に対し、世界経済が一段と減速した場合でも、アジア地域の大半の国は力強い政策対応を採る余地があると述べた。

さらに同氏は、中国や輸出依存度が一段と高いアジアの国々の多くでは、財政政策の一層の緩和が可能であり、日本銀行は資産買い入れの強化が可能であろうと述べた。また、対外黒字の削減に向けた再調整努力を継続することで、外生リスクからの影響が減少し、世界経済成長を支えることができるとの認識を示した。

「経済の再調整と国内の成長源の強化が、引き続き大半のアジアの政策優先課題である」

また同氏は「一部の国では、これは、ソーシャル・セーフティネットの構築や金融制度の自由化による消費の押し上げのための改革を伴うことになるだろう。また、インフラのボトル・ネックに対処し、ガバナンスと公共サービスの提供を強化するなど、民間投資の環境の改善を図る必要がある国もある」と指摘した。

今後について、シン局長は、今年はアジアにおけるIMFにとり重要な年となると述べた。IMFと世界銀行は今年の10月に東京で年次総会を開催する予定である。シン局長は、これは、世界経済における日本とアジアの重要な役割、および「アジアとIMFとの建設的な協力関係の高まり」を反映したものだと言った。